

No. 1286

大地震に備えて

9月1日は防災の日。この日東京足立区で大規模な防災訓練が行われました。訓練は「午前7時30分、震度6の大地震が東京を直撃足立方面に大被害」という想定で、東京都、警視庁、消防庁など28機関が参加、東京としては史上最大の訓練となりました。緊急自動車が通行したあと、消防隊による避難道路の確保。地元住民約4,000人が避難道路を使って荒川まで誘導されました。訓練の中心会場になった荒川の河原では、多彩な訓練が行われました。

まず自動車事故により車内に閉じ込められた人の救出作戦。続いて倒壊家屋の屋根や出入口を破壊して居住者を助け出す、救出訓練が、実践さながらに行われました。会場内に張られたテントでは東京都医師会が中心となって、負傷者の応急措置、医薬品の交付など災害医療救護活動が行われました。桜内国土庁長官が訓練の模様を視察この訓練に参加した人は地元の住民を含めて13万人、ヘリコプター、飛行機、車輛300台も加わって陸海空の立体訓練が繰り広げられました。

夏の終わりに

長く暑い夏も、もう終わり、街のあちこちには秋の気配が漂う。一足先に秋が訪れた群馬県三国峠。山あいを流れる川辺は、ひんやりとして、肌寒いくらいだ。自然歩道を旅すると、目に入るのは秋の実り、栗やリンゴが枝も折れんばかりに実っている。

田んぼを見渡せば、稲穂が頭をたれる。暑い夏のおかげで、収穫は多い。イナゴやコオロギの鳴き声が、秋の季節を知らせる三国温泉郷では“灯と水と緑のシンホニー”猿ヶ京まつりが開催された。都会からやってきた若者たち、夏の疲れをいやし、秋の収穫にそなえる農民たち、温泉にひたる老人たち、皆んなが揃って盆踊りの輪を作る。まつりが終ると、この地方には本格的な秋がやってくる。